

給食サービスボランティア

キスゲの会 (飯田)



▲手際よく調理が進められていく



▲時には相談しながら楽しく調理

キスゲの会は毎月第2、第4火曜日に活動している。全2班体制でそれぞれ月に1回ずつを担当している。

午前8時半過ぎには参加者達は公民館に集まっており、すぐに調理に取り掛かっていた。この日は全部で51食を作る予定。

あらかじめ栄養士が作成した献立と作り方をもとに、参加者それぞれが特に指示されることもなく調理を進めていた。

地域の見守りとして

参加者の多くは、「近所の方や他の参加者から誘われたり」、「自主的に参加したり」などがきっかけでボランティア活動を始めたという。

そうした繋がりもあってか調理中は楽しく会話も弾み、連携がとれている様子。

途中休憩時間を挟んだ後に、盛り付け作業と配達の準備へ移っていった。

利用者の中には高齢者や、体が不自由などの事情を抱える方が多いという。利用希望者の申請に基づいて社会福祉



▲4月に行われたキスゲの会総会の様子



▲栄養バランスに優れたお弁当

九重町社会福祉協議会では、給食サービスボランティアを行っており、九重町内4地区にそれぞれボランティア団体があり活動しています。今回は各ボランティア団体のある1日について取材しました。どの団体も大変さを感じさせない程の活気と明るい雰囲気にも包まれており、地域を支える皆様の温かい気持ち伝わってきました。

協議会が審査を行い、審査通過後に利用者となることができる。

配達は参加者で分担して、各々の自宅の近所の方に届けるようにしている。利用者の方とお話して、特に高齢者や体の不調を抱える方などの様子を確認するまでを配達の二環としている。

長年にわたる活動

活動していて良かったことを伺ったところ、「利用者喜んでもらえる。」「毎回楽しみにしてもらっていることがやりがいになっている。」「好評だったおかずを聞いたりするのがうれしい。」「近所の方々との交流が楽しい。」「とのことだった。また、「やる気のある若い人（後継者）を育てて、この活動をこれからも継続していきたい。」といった声も聞かれた。

昨年11月には30年以上にわたる活動の功績を讃えられ、厚生労働大臣から感謝状が授与されている。

取材日…令和6年4月23日

ボランティア東 (東飯田)

ボランティア東は、毎月第1、4土曜日と第3月曜に給食サービスボランティアを行っている。全3班体制で活動しており、この日は9人で約40食を作る予定となっていた。

調理が始まると、事前に役割分担ができていくかのように、参加者それぞれが全体の流れを見ながらスムーズに作業に取り掛かっていった。

調理中は終始和やかな雰囲気で、笑い声もよく聞かれ、手際が良すぎて予定の時間より早く出来上がりそうな程だった。

一人ひとりへ届ける

お弁当の盛り付け作業が終わり、11時頃から地区毎に分担し、2〜3人を一組として配達に出ていく。

利用者は一人暮らしの高齢者の方、体が不自由などの理由で買い物に行くことが難しい方が多いという。

利用者のお宅に伺うと、顔を合わせて利用者のお話を聞いたり、何気ない会話をしたりすることで体調や様子を確認している。



◀「指示があった方がかえって遅くなるかも」という声も



◀一人ひとりのお宅に伺い、直接手渡される

この日の配達先の利用者からは「今まで届けていただいて助かっている。」「毎回おいしいものをいただけてありがたい。」「買い物に中々行けないので助かっている。」といった声が聞かれた。「こうした言葉をいただけるのがうれしい。」と参加者の一人は話していた。また、お弁当箱を回収する際に、お礼の手紙が添えられていることがあるようで、そうした利用者とのやりとりが参加者のやりがいにつながっているという。

参加者の生きがいに

配達が終わって、全員が公民館まで帰って来ると、みんなでお昼ご飯の時間となった。食事中は皆で冗談を言い合いながら笑い声に包まれていた。「こうしてみんなと面白いことを言い合いながらご飯を食べるのが楽しい。これが生きがいになっている。」と話されている方もいた。

この日の参加者の中には70代以上の方も多かったが、こちらが元気をもらえるような明るく活気に満ちた雰囲気に包まれていた。

取材日…令和6年5月13日

はづきの会 (野上)



▶盛り付け作業の様子。色とりどりのおかずで弁当箱が彩られていく

はづきの会は毎月第2、3、4水曜日に野上地区で給食サービスボランティアを行っている。全3班体制でこの日は2班の8名で約30食の調理予定。

この日の献立は、えんどうご飯、新玉ねぎのかき揚げ、焼き塩サバ、ひじきとキャベツの酢の物などの栄養バランスに優れた内容であった。

また、はづきの会では食材の買い出しを参加者全員で行っている。家庭で野菜を作っている方は持参してくるなど、食材の持ち寄りもしている。

調理と配達で分担

配達の時間が近づくと、配達担当のボランティアの方々が公民館へ集まって来た。はづきの会では配達と調理で担当を分担している。公民館の近隣の方は直接徒歩で配達しているが、遠方の方については配達ボランティアが車で配達している。

玄関先でお弁当を渡ししながら、体の具合を尋ねたり、何気ない会話をしたり、一人ひとりとコミュニケーションを図っていた。

交流の場としても

はづきの会の参加者は地区の民生委員や友人からの声掛けがきっかけでボランティアに参加しているという。

ボランティアに参加することで、参加者同士の交流が生まれる場になっていることが継続するモチベーションになっているとのこと。

この日の配達先では、利用者から「いつも美味しいものをありがとうございます。」といった声が聞かれた。またお弁当の感想を手紙で伝えてもらえることもあるようで、そうしたことが参加者の喜びに繋がっているという。



▲「家まで届けてもらって大変助かっております。」といった声が聞かれた



◀完成したお弁当はすぐに利用者の元へ配達される。

一方で、調理する参加者の高齢化が課題だという。高齢を理由に参加を辞退する方がいるため、新たな参加者の確保が課題となっている。

感謝状受賞

はづきの会は昨年11月に30年以上にわたる活動の功績を讃えられ、飯田キスゲの会とともに厚生労働大臣から感謝状が授与されている。

取材日…令和6年5月15日

ボランティア南 (南山田)



▲調理中の様子。手際よく調理を進めていく

ボランティア南は月に2回、南山田地区で給食サービスボランティアを行っている。
この日の参加者は12名で、作るお弁当の数は全部で48食。
調理方法を確認すると、それぞれ調理に取り掛かっていった。疑問が出たときは、それぞれの豊富な経験と知識を基にみんなで相談しながら、明るく賑やかに調理が進められている様子だった。
途中で休憩を挟んだ後、11時頃から2人1組で担当する利用者の元へ配達に出ていった。



◀完成したお弁当。カルシウム量が豊富になっている



◀意見を出し合いながら調理



◀「珍しいものが食べられてうれしい。ありがたい」といった声が聞かれた

この日の利用者からは「二人だと同じものばかり食べてしまう。」「珍しいものが食べられてうれしい。」といった声が聞かれた。
その一方で「持って行った方が喜んでくれる。」「参加者同士が楽しんで取り組んでいる。」ことが参加者のやり甲斐になっているという。

継続と課題

ボランティア南には2つの班があり、どちらも平均年齢は70歳を超えているという。近年は高齢を理由に参加を辞退する方もいるとのこと。配達についても、現在自分たちで運転しているが、地域内には狭い道路が多く、運転に不安がある方が増えてきたという。配達の運転手ボランティアが増えてくれると助かるとのことだった。

こうした課題がありながらも、今後は「若い参加者を増やし、給食数を増やして行きたい。これまでどおり自分たちも楽しく長く続けていきたい。」とのことだった。

取材日…令和6年5月23日